



8 月 号

平成 29 年 8 月 25 日

# 桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで  
たくましい荘川っ子

- ・考える子
- ・思いやりのある子
- ・元気な子

## 地域のよりどころとなる '学校'

校長 水口 悟

天地始めて肅し (てんち はじめて さむし 処暑・次候)

ようやく暑さが収まりはじめるころ。夏の気が落ち着き、万物があらたまる時期とされます。(新暦では、およそ八月二十八日～九月一日ごろ 日本の七十二候を楽しむより)

### □ 第 21 回 海の子山の子交流事業

「交流の姿を見て、荘川の子どもたちは、ふるさとを背負っていると思いました」「子どもたちの合唱は、交流のためだけに練習してきたものではないことが分かります」(新島小校長・副校長)『桜の樹の下で』という歌は、荘川桜のことを作詞作曲したのですか」(大野屋旅館・長栄寺の奥さん)



まるで、新島の子どものように接してくださる新島の方々。山の子どもたちにとって、新島の景色はもちろん感動的であるのだけれども、それ以上に、島の方々の温かさに触れた体験により、一生忘れることのできない研修となりました。また、行ってみなくなる思い出深い‘新島’です。新島の人々の温かさは、甚兵衛さんが流人でありながらも島の人たちに接した姿そのものなのでしょう。新島へ渡られてから、今年で 242 年目となります。毎年、小学校 6 年生が荘川の代表として、新島小学校との交流・長栄寺でのお墓参りに行かせて頂いていることに、感謝の気持ちで一杯です。同時に、毎年温かく迎えてくださる新島の方々に感謝いたします。また、お二人のお墓を毎日見守ってくださる新島小学校に感謝いたします。6 年生が新島小学校の 6 年生と楽しく交流する姿を、合唱する歌声を、演じる獅子舞いを、真っ青な空と海の向こうの甚兵衛さんと勘左衛門さんは、今年も楽しんでくれたと思います。お父さんお母さん、来年は是非とも行きましょう！

### □ 荘川の子どもを育む環境を考える会 (荘川オール・スタッフ)

“まちづくり、子育ての在り方 住民一丸で考える” 翌日の岐阜新聞のタイトルでした。「荘川の人たちは、すごい！」と記者の方が言われました。今後のまちづくり、子育ての在り方について、保護者・地域の方々が自分のこととして考え、一丸となって真剣に聞き入り考える地域として映ったことは、間違いありません。私も、そう思います。他地域の者だからこそ、感じる・分かることがあります。会場を振り返れば、小中学校の先生方が一生懸命に積み重ねてきた実践についても、真剣に聞き・意見してくださる姿に、学校としても大変嬉しかったです。

保護者・地域の方々のつながりは、豊かです。学校と地域のつながりも豊かです。地域の教育力は、十分に発揮されていて、荘川の子どもたちは、荘川のみなさんオールスタッフで、育てられています。それは、新島の方々の言葉が十分にそのことを表しています。また、何より 5 日に行われたデイ・キャンプの準備や当日の姿においてよく分かります。川の中に入り、子どもたちが安全に安心して川遊びができるように見届けている姿、鮎の友釣りを体験させている姿、塩焼きの塩のふり方を教えている姿等々。確かに働く先が無いことは心配ですが、学校(教育環境)が無くなることはもっと大変なことだと私は思います。

庄川へ 鼻カンやっつけ放し 鮎の泳ぎに 夢ふくらませ (さと)